

事務事業	15048	図書館子ども講座開催事業	担当課	社会教育課	担当係	町民図書館
------	-------	--------------	-----	-------	-----	-------

計画期 体計 系画	施策	07	子どもの権利を守り、安全で健やかに成長できるまちをつくる	予算 科目	会計	1	一般会計
	取り組み方針	250	子どもの健全育成を推進する		款	10	教育費
					項	5	社会教育費
					目	6	町民図書館費

法令根拠条例等	図書館法第3条	個別計画
---------	---------	------

実施期間	<input type="checkbox"/> 30年度のみ	<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返	H13 年度より開始	<input type="checkbox"/> 期間限定(複数年)	年度～ 年度
------	---------------------------------	---	------------	------------------------------------	--------

【事業の目的・内容】(改行は、「Alt」+「Enter」で行ってください) 子ども読書活動推進計画に沿って、子どもの読書活動を支援するために幅広く多岐にわたる分野の講座を実施する。子どもは受講することにより、学ぶ楽しさや図書館資料の有意義な利用方法などを知る。 囲碁教室・人形劇観劇・工作教室・一日図書館員体験を開催している。	<input type="checkbox"/> 2次評価会議に提出します (左にチェックを入れる)
【業務内容(町職員の仕事内容)】(改行は、「Alt」+「Enter」で行ってください) 講座の企画・立案、指導、準備事務全般、講座時の案内	講師謝礼金 80 千円
	千円
	千円
	千円

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動) 30年度に行った主な活動(※箇条書きで記入) ・夏休み工作講座 ・囲碁教室 ・文化祭工作教室 ・春休み子ども劇場 ・一日図書館員 ・子ども上映会(夏・冬)	事務事業の目的
② 対象(誰、何を対象にしているのか) 18歳までの幼児・児童生徒	
③ 意図(この事業で、対象をどのような状態にしたいのか) ・読書の意義や楽しさを知り読書習慣を身に付ける。 ・図書館で様々な情報を手に入れ勉強や遊びに役立てる。	

④ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)		指標数値			
名称	単位	29年度	30年度	31年度	
ア 講座開催数	回	27	26	26 (見込)	
イ				(見込)	
ウ				(見込)	
⑤ 対象指標(対象の大きさを表す指標)		指標数値			
名称	単位	29年度	30年度	31年度	
ア 18歳までの人口	人	9,458	9,422	9,499 (見込)	
イ				(見込)	
ウ				(見込)	
⑥ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)		指標数値			
名称	単位	29年度	30年度	31年度	
ア 参加者数(延べ)	人	目標	407	400	400
		実績	331	467	
イ		目標			
		実績			
ウ		目標			
		実績			
エ		目標			
		実績			
オ		目標			
		実績			

(2) 総事業費の推移

事業費	財源内訳(千円)		29年度 (決算値)	30年度 (当初予算)	30年度 (決算値)	31年度 (当初予算)	32年度 (計画)	33年度 (計画)
	経費	国・県支出金、地方債等						
		受益者負担等						
		一般財源	80	80	80	110		
		合計(A)	80	80	80	110	0	0
		(内臨時・嘱託職員人件費)						
		正職員人件費[按分](B)	1,404	2,150	1,801	1,698		
	トータルコスト(A)+(B)	1,484	2,230	1,881	1,808	0	0	

事務事業評価表(事業実施年度:平成30年度)

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① 事務事業を開始したきっかけは何ですか?いつ頃どんな経緯で開始されましたか?	② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化していますか?	③ 事務事業に対して関係者からどんな意見や要望が寄せられていますか?(誰からの意見か明記)
平成3年の開館当初から実施。講座を行うことにより、本や図書館を利用することの有効性に気付き、読書のきっかけづくりにする。	読書の重要性はますます大きくなっており、国の法律も整備され多様な取組みが実施されてきている。	「楽しかった」「参加してよかった」「また参加したい」との声あり。(講座参加者やその保護者)

(4) 昨年度の評価結果の取り組み状況調べ

昨年度の事務事業評価結果		30年度の取り組み状況と今後の方針	
事業の方向性	平成30年度の取り組み概要及び期待される効果	実施状況	実施できなかった理由と今後の方針
<input type="checkbox"/> 廃止・休止 <input type="checkbox"/> 目的の見直し <input type="checkbox"/> 有効性改善 <input type="checkbox"/> 効率性改善 <input type="checkbox"/> 事務事業終了 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持・継続		<input type="checkbox"/> 記述どおり実施できた(コメント必要ありません) <input type="checkbox"/> 一部実施できた(理由→) <input type="checkbox"/> 実施できなかった(理由→)	

2 評価(SEE)及び全体総括の部*原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

(1) 評価

	評価の理由
目的妥当性評価 ① 上位施策への貢献度は大きいですか?※総合計画を参照してください <input checked="" type="checkbox"/> 貢献度大きい(理由→) <input type="checkbox"/> 貢献度ふつう(理由→) <input type="checkbox"/> 貢献度小さい(理由→) ② 税金を使って達成する目的(対象と意図)ですか?(事業の目的は、総合計画の町の役割や基本方針に合っていますか?) <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である(理由→) <input type="checkbox"/> 妥当性が低い(理由→)	学年や校区が異なる子ども間で交流ができる。地域・サークル活動に参加する子どもの割合を増やすことにつながる。 次世代を担う子どもたちが参加できる行事・講座の開催及び支援は行政の役割である。
有効性評価 ③ 成果がこれ以上向上する余地(可能性)はありますか? <input checked="" type="checkbox"/> 成果向上余地がある(理由→) <input type="checkbox"/> 成果向上余地がない(理由→) ④ 廃止・休止した場合、成果への影響はありますか? <input checked="" type="checkbox"/> 影響あり(理由→) <input type="checkbox"/> 影響なし(理由→)	参加者を増やすため催しの内容の充実に努めているが、周知の方法をさらに工夫して参加者数を増やしていきたい。 子どもたちの学びや多様な体験の機会が失われる。
効率性評価 ⑤ 現状の成果を落とさずにコスト(予算+事務従事時間)を削減する新たな方法はありますか?(広域連携や民間委託等の導入など) <input type="checkbox"/> ある(具体的な内容→) <input checked="" type="checkbox"/> ない(理由→)	図書館職員が講師を務めているため謝礼金は発生しない。工作教室等の材料等は、リサイクル品や職員自宅等からの提供のものでまかなっており、購入物は最小限に抑えているため、削減は難しい。

(2) 30年度を振り返って(全体総括・反省点)

各講座とも参加者からは好評を得ている。今後も子どもたちが楽しめる講座内容にしていきたい。応募者が多い講座等に関しては、可能な限り抽選もれの子どもの子どもが出ないよう対応していきたい。「1日図書館員」については今年度からは小学校2年生以上を対象としたが、特に問題はなかった。参加人数が大幅に増えたのは、事前申込み不要の夏休み子ども上映会の参加者数が多かった事に起因する。

3 今後の方向性(31年度以降の計画と32年度予算への反映)(PLAN)

(1) 今後の事業の方向性(複数選択可)	(2) 平成31年度以降に取り組む内容と期待される効果
<input type="checkbox"/> 廃止・休止(理由→) <input type="checkbox"/> 目的の見直し(内容→) <input checked="" type="checkbox"/> 有効性改善(成果向上)内容→ <input type="checkbox"/> 効率性改善(コスト削減)内容→ <input type="checkbox"/> 事業終了 <input type="checkbox"/> 現状維持・継続	講座参加者を増やすため催しの内容の充実に努めているが、周知の方法をさらに工夫して参加者数を増やしていきたい。